

脅威の生命力と圧倒的な保水力をもつ、地球遺産「バオバブ」をあなたの肌へ

スキンハイドレーションジェル

2015年10月23日（金）新発売

2015年10月23日（金）、オルビス株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：阿部嘉文）は、忙しい現代社会を強くたくましく生きる女性を応援する“ビューティタフネス”をコンセプトにしたRechercher（ルシエルシエ）ブランドより、地球遺産「バオバブ」のエキスを配合したまったく新しいスキンケア「スキンハイドレーションジェル」を新発売します。



地球誕生から現在までの壮大な時の流れの中で、様々な生命体を絶滅に追いやった天変地異も乗り越え、今なお過酷な乾燥熱帯のサバンナ気候の元、圧倒的存在感を放ちながら息息する地球遺産「バオバブ」。

この自然界のダイナミックな宝物、バオバブの命を支えている“葉”から、丁寧に抽出した希少なエキスを配合し、オールインワンジェルの力を飛躍的に高めたのが、ルシエルシエ「スキンハイドレーションジェル」。

指に取った瞬間立ち上る、ローズマリーのスパイシーでエネルギッシュな香り。こっくりととろみがあって、肌に乗せると吸い付くような新感触で、瞬時に生命力みなぎるようなうるおいで満たされる肌。

未体験の美容チャージ成分「バオバブの葉エキス」を配合した、一発逆転の新オールインワンジェルで、想像を遥かに超えた生命の輝きを、疲れ切った肌と心へ。乾燥の厳しい冬に、たった1品で、とびきりのうるおいと気持ちまで高まるエナジー補給を、きっと実感するはずです。

驚異の生命力と圧倒的保水力を誇る地球遺産「バオバブ」

サバンナで生きながら、水分を蓄え続けられる秘密とは？

年間を通して太陽からの熱エネルギーを最も多く受け、地球上で一番高温多湿な赤道直下。

その赤道をはさんで南北共に約 240 キロの間に見られる常夏のサバンナ気候は、3～9 か月間、雨が降らない“乾季”と、一時の短い“雨季”で成り立っています。地面はカラカラに乾き切り、草木も枯れ果てるこのサバンナ(熱帯草原気候)の過酷で長い“乾季”をもものともせず、砂漠地帯のすぐ手前まで林立している巨樹。それが「バオバブ」です。

「UPSIDE-DOWN TREE(さかさまの木)」とも呼ばれる印象的な樹形で、フランスの作家、サン・テグジュペリの童話『星の王子様』の中では「放っておくと僕の星全部が食い尽くされてしまう」と記された、生命力に長けた巨樹、バオバブ。恐竜がいた遙か昔からすでに存在していたのでは、という説もあり、以降現在まで、乾燥著しいサバンナ気候で威風堂々と生き延びてきた、驚異の生命力を誇ります。特筆すべきは他の生命体は決して持ち得ない、その圧倒的な“水分保持力”。体積の 60%強が水分でできており、成長すると高さ 20m、周囲 30m 近くに巨大化する幹の表層部(皮層)の下は、スポンジが水を含んだような構造で、サバンナ気候の厳しい“乾季”の間、動物達の命をつなぐ水分補給源ともなっており、動物達に力づくで傷つけられ、水分を奪われた結果、幹が空洞になってしまっても枯れることなく、逞しく生き続けます。



撮影：吉田 繁

未体験のうるおいパワーを秘めたバオバブの葉に着目。

サバンナ気候で暮らす人々からは、「森の母」「一千年の木」「宝の木」等様々な愛称で呼ばれ、食物として、煮出して万能薬として、また生活用品を作る資材として、1 本まるごと、全く無駄が出ない有用樹木として愛され続け、敬われているバオバブ。

自らの生命力を未来へと繋げる“種”を残すため、ほんの束の間、しかも断片的に降る“雨季”に、集中して青々と葉を茂らせ、花を咲かせて実を付けることで、脈々と命を紡いできました。

想像を絶するほどの慢性的で激しい乾燥環境にあって、巨体に十分な栄養と水分を短時間に効率よく送り込むパワフルな「葉」に着目し、その貴重なエキスを抽出。アミノ酸を豊富に含み、ねっとり濃密でまろやかな「バオバブ葉エキス」は、未体験のうるおいパワーが期待できる、前代未聞、注目の美容成分です。



<商品情報>

スキンハイドレーションジェル 30g 2,500円(税込2,700円)

●無着色 ●バオバブ葉エキス=肌をうるおいで保護する保湿成分 ●吸着型ヒアルロン酸=肌をうるおいを与え、ふっくら整える保湿成分 ●ブルガリアンローズエキス、ローズゼラニウム=植物性保湿成分 ●ローズマリー油=植物性香り成分

*申し訳ありませんが、サンプルはございません。*アレルギーテスト済 ※アールコールフリー

*在庫がなくなり次第、販売終了とさせていただきます。売り切れの際はご了承ください。*本商品は店舗でのお取り扱いもごさいます。 ※すべての人のアレルギーが起きないというわけではありません。



千年、2千年とか長く生きたものにしかない、
神秘的で、なぜか惹きつけられるパワーが、バオバブにはあるんです。
そんな姿を見て、触れてもらって、その結果、
人の心がいい方向に動いてくれたら幸せですね。

———写真家 吉田 繁



最大級の大きさは、幹周り 45m

アフリカ大陸のバオバブは、太いものも多く、今まで僕が出会った中で、1番大きかったのは、幹周り 45.3m。男性 25 人ぐらいが両手をつないで円をつくるのと同じくらいですから、かなりの大きさです。



樹齢は、いまだに解明されていません。

バオバブの生息地は常夏で四季がないため、年輪ができず、年輪年代学が活用できないんです。数年前に植えた木の大きさから推測して、それぞれの樹齢を判断しており、完璧にはわからないとされています。恐竜時代から生き延びていたという説もあるんですよ。



バオバブは地球が生き残れるかの指標

バオバブの故郷と言われているマダガスカルでは、人口増加に伴う爆発的な水田開発の影響で、バオバブの巨木がかなり危険な環境にさらされています。バオバブがずっと生き続けてくれればきっと、僕らの星も壊れない。そう信じています。



奇妙な形には、ワケがある。

熱帯や亜熱帯は、1年を通じて気温が高く、年中葉を茂らせていたのでは、水分の消耗が激しいので、雨季が終わると、バオバブは自分で下の方にある葉を落として成長していきます。過酷な環境から自らを守るため、あんなユーモラスな樹形なんですね。



星を食べ尽くす？ とんでもない！

バオバブは、ほうっておくと星一面にはびこり、壊滅させるほど巨大になる、という「星の王子様」の悪いイメージもありますが、実際現地では、樹皮、葉、実から根っこまで 100 近くの利用方法があって、人々の暮らしに果たす役割は大きく、とても愛されている存在です。女性たちが実を煮たりして、エキスを抽出し、髪の毛を整えるなど美容的な使い方も日常的にしているようでした。

吉田 繁 プロフィール
写真家。1958 年東京生まれ。
著書に「地球遺産 最後の巨樹 BAOBAB」「一眼デジタルの巻」(共に講談社)、「千年の森へ」(アスペクト)などがある。現在はデジタル写真分野の先駆者として、また最新機材のナビゲーターとしても活躍中。



<http://bigtree.holy.jp>

英語版 <http://www.shigeruyoshida.tokyo>

本件に関する問い合わせ先 *画像データもご用意しています。

報道関係者： オルビス株式会社 TEL：03-3788-7231 / FAX：03-3788-7463
担当： 杉谷拓馬 (takuma.sugitani@orbis.co.jp)

消費者： オルビス株式会社 TEL:0120-050-050 HP：<http://www.orbis.co.jp>